矢板のお城めぐり……②

矢板の城めぐりは、まず塩谷家の本居城である川崎城から始めることとしましょう。

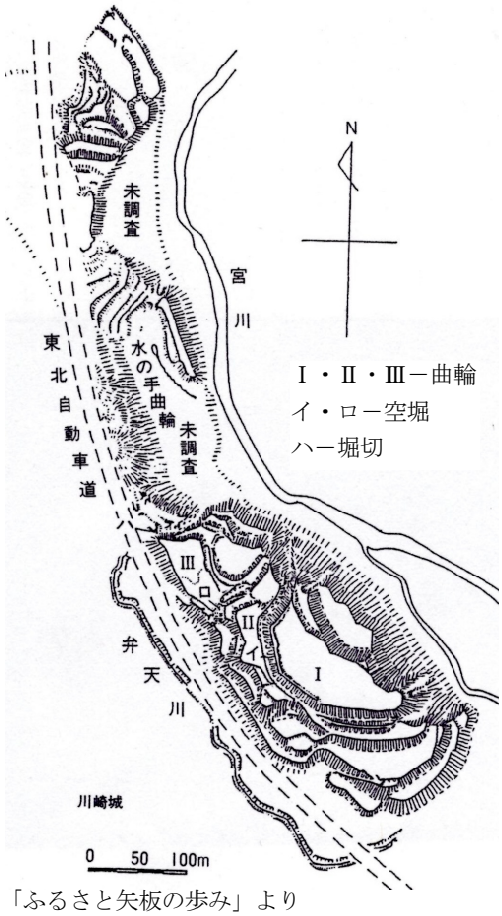
まず川崎城の範囲ですが、北端は、城の湯温泉の西隣にある川崎神社から、南端は、堀江山と呼ばれる所までの南北約一・五キロメートルにも及んでいます。東西は、宮川と弁天川に挟まれており、一番狭いところで一七〇メートル、広い所でも二七〇メートルとなっています。お城は、高原山から続く丘陵地を利用して造られた典型的な「山城」で、主郭部（本丸）の標高は、二四三メートルです。東側は急峻な崖地で、その下を流れる宮川は外堀の役目を果たしていました。

次に、城の核心部を覗いてみましょう。主郭部は、東西が四四メートル、南北が一四〇メートルほどで、三日月形をしています。戦の場合には、司令塔となった場所です。この主郭部を取り囲むように、逆台形の一の堀（空堀）が築かれています。この堀の西側が二の丸で、主郭部を保護するように造られ、その規模は、二二メートル×八八メートルの長方形をしています。この直下にある二の堀に続いて三の丸があります。ここには馬屋や貯蔵庫が立てられていたようです。城の入り口にあたる大手門は、この三の丸の反対側の宮川に面した窪地に建てられていました。

それでは、この城はいつ頃誰の手によって造られたのでしょうか。江戸時代末期に出版された「下野国誌」によりますと、塩谷朝業によって鎌倉時代初期の頃に築城されたとあります。それ以前から塩谷地方の北西部を支配していた塩谷家、ここに宇都宮家五代頼綱の弟である朝業が養子として迎えられた訳ですが、これは宇都宮家の支配下に置かれたということでしょう。ここで朝業は、那須家に対抗するために、ここに堅固な城を築き上げました。

以後約四〇〇年の間、那須家との攻防を繰り返しながら、ついには文禄四（一五九五）年に秀吉により塩谷家は改易されてしまいました。最後の城主であった義綱は、水戸佐竹家に仕官しますが、やがて佐竹家は秋田に転封となり、義綱も秋田に移り住むことになります。そして川崎城も廃城となってしまいました。

（Ｔ・Ｓ）



「ふるさと矢板の歩み」より

笑点の六代目司会者である春風亭昇太さんは、大の城郭ファンで、全国の城めぐりをしています。そして、ついには「城あるきのススメ」という本まで出版してしまいました。

その昇太さんに「ぜひとも川崎城にお出かけください」とラブコール中です。

スポーツの秋!!　栃木県還暦野球大会が矢板で開催!!

栃木県秋季還暦軟式野球大会が、十月二十二日・二十九日に矢板運動公園野球場・多目的グラウンドで開催されます。

一昨年まで黒磯で行われていましたが、昨年から県野球連盟の要請により、矢板市が会場となったため、出場予定の矢板シニアクラブナイン一同気合が入っています。

そこで、矢板シニアクラブの村上代表、小阪監督、本木主将にお話を伺いました。

●普段の活動は

現在、部員は六十歳以上で二十七名が登録をしています。

練習日は、毎週土曜日で、シャープグラウンドを無料で借りることができており、大助かりです。感謝を込めて、年二・三回草刈りを行っています。

●還暦野球大会とは

栃木県には、シニアチームが十五チーム登録されています。毎年春季と秋季の二大会が実施されており、春季は宇都宮市で、秋季は昨年より矢板市で実施されました。

矢板のグラウンドは整備が行き届いており、三試合が同時にできるというメリットがあって、昨年参加したチームの方々が、「良く手入れされていて、すばらしい球場ですね」と言ってくれました。

●読者の皆さんに一言

昨年の大会は第三位の成績でしたが、今年はその上を目指して頑張ります。試合会場が地元ということもあり、シニアパワー全開で臨みますので、ぜひ応援をよろしくお願いします。

皆さんも健康管理のため、野球で遊びませんか。

（Ｊ・Ｎ、Ｍ・Ｗ）

矢板シニアクラブは、二十二日の第二試合に出場します！

村上代表　小阪監督　本木主将

（編集後記）

矢板市に住んで45年、かわら版に参加して2カ月の眼に映ったのは、取材で出会った方、9名の編集委員、2名の秘書広報課の方たちの矢板市への愛着、矢板市の良いところをいっぱい発信しようとする熱意でした。　（Ｍ・Ｋ）